

都道府県等への技術指導について

林木育種センターでは、都道府県からの要請等に応じて、種苗の増殖や採種園等の造成改良に関する技術指導を行っています。令和2年度に実施した技術指導について紹介します。

1. カラマツ採種園管理の技術指導

カラマツは、材の人工乾燥や集成材加工等の技術が向上してきたことに加え、比較的成長や木材の強度に優れていることから、近年苗木の需要量は高まっていますが、苗木生産に必要な種子量が不足している状況です。スギとヒノキは、ジベレリンを使用することによって比較的簡易に着花を向上させ、安定的に種子を確保できます。カラマツについては、ジベレリンのような着花効果の高い薬剤はなく、幹を剥皮したり(写真1)、枝に切り込みなどを入れて着花促進させますが、豊凶の影響で着花量は変化し、安定的に種子を確保することが課題となっています。そこで、吾妻森林管理署、群馬県林業試験場、林木育種センターの3機関共同で吾妻森林管理署管内のカラマツ田代第1採種園を活用して安定的な種子を確保する取組を平成27年度から進めています。これまでに着花に有効とされる陽光が採種園内の下層まで届くようにするための受光伐や断幹整枝剪定などの現地検討会や着果調査を行い、令和2年度は環状剥皮処理方法の技術指導を行いました。環状剥皮は毎年着花が期待できるように採種園内を区域分けし、順次処理を進めています。今後は、施肥や断幹整枝剪定など着花枝の充実を図るような施業を計画しています。



写真1 環状剥皮作業

2. ヒノキ採種園管理の技術指導

岐阜県東濃松採種園において、岐阜県の担当者と採種園管理者を対象に講習会を開催しました。室内において採種園設計の考え方や採種木の樹形誘導、ジベレリンによる着花促進方法などのヒノキ採種園の管理、また、エリートツリーと特定母樹の選抜基準や選抜数などについて説明を行いました。屋外では、雌花と雄花の着き方や採種木の断幹整枝剪定方法を実際に見てもらいながら説明しました(写真2)。実技を交えたことにより、さらに理解しやすくなったと好評をいただいたものの、新型コロナウイルス感染防止によるマスクの着用や室内で密にならないように座席の間隔を空けたことにより声が小さい、聞き取れないなどの意見もありました。



写真2 ヒノキの雌花と雄花の着き方

3. 優良な苗木の安定供給に向けて

戦後造林された人工林を中心に利用期を迎え、伐採量の増加が見込まれる中、再生林に必要な苗木の安定的な供給、また、利用する苗木は二酸化炭素の吸収・固定等に寄与する優良な品種が求められています。森林が有する多面的機能を将来にわたって発揮させ、SDGs達成への貢献に資するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」人工林資源の循環利用を促進することが重要です。そのため、採種園・採種園産種苗が安定的に供給されるよう技術指導に努めていきたいと思っております。

(指導普及・海外協力部 指導課 千葉 信隆)